午祷

一同立ち、準備の黙祷の後に次の唱和を用いる。

司式者　神よ、すみやかに我らを救いたまえ
会衆　主よ、とく、きたりて我らを助けたまえ
一同　父と子と聖霊に栄光あれ、始めにあり、今あり、世よ限りなくあるなり
アーメン

ここでう次の聖歌を歌いまたは唱える。

一　まことの　みかみは　みひかりを　はなち
うつろう　このよを　しろしめし　たもう

二　つみの　ほのおけし　あしき　おもい　さり
みとたまを　まもり　やすきを　えさせよ

三　みちちと　みたまと　とわに　ひとつなる
みこイエスに　よりて　いのり　たてまつる
アーメン

ここで次の詩の全部または一部を歌いあるいは唱える。

詩百十九篇　八一－九六、九七－一一二、一一二－一二八

父と子と聖霊に栄光あれ、始めにあり、今あり、世よ限りなくあるなり

司式者は次の聖語を朗読する。

すべてのこと試みて良きものを守り、すべて悪のたぐいに遠ざかれ
テサロニケ前書五章二一、二二節

会衆　主に感謝し奉る

司式者　われ常に主を祝いまつらん
会衆　われ常に主を祝いまつらん
司式者　主をたとうる言葉はわが口に絶えじ
会衆　主を祝いまつらん
司式者　父と子と聖霊に栄光あれ
会衆　われ常に主を祝いまつらん
司式者　主はわが牧者なり、我は乏しきことなからん
会衆　主は我をみどりの野に伏さしめたもう
司式者　主よ、我らの祈りをききたまえ
会衆　我らの声を主の御前に至らせたまえ
司式者　我らいのるべし

特祷

ここで当日の特祷を用いる。つづいて次の祈り、伝道のためそのほかの代祷を用いてもよい。

いと恵みふかき我らの主、われらの神イエスよ、主はわれら罪に死に義に生きんがため、昼のころ、十字架のうえにて大いなる苦しみを受けたまえり。願わくは主の十字架を記憶せしめ、この世にてきよき生涯をおくり、後の世に主の栄光にあずかることを得させたまえ。主は父と聖霊ととみに一体の神にましまして世々限りなく統べ治めたもうなり。アーメン

次に左のように言う。

司式者　主よ、我らの祈りをききたまえ
会衆　我らの声を主の御前に至らせたまえ
司式者　我ら主を祝いまつらん
会衆　主に感謝し奉る

司式者　願わくは主イエス＝キリストの恵み、神のいつくしみ、聖霊のまじわり、我らとともに限りなくあらんことを。アーメン